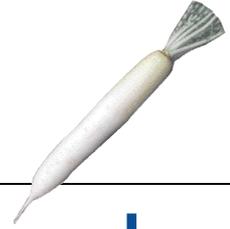




CHALLENGER

[挑戦者たち] ①



轟 todoroki **大** daikon **根**

いまや全国にその名を知られるようになった
関宮町・杉ヶ沢高原の「轟大根」。
度重なる困難に打ち勝ってこられたのは、
昔ながらの方法と先人たちの努力の賜物だった。
その歴史と伝統を
若い挑戦者たちが受け継ごうとしている。

陸の孤島・轟地区

関宮町轟・杉ヶ沢高原。山深い標
高750メートルの場所に、今や全国
にその名が知れ渡るほどの有名フラ
ンドとなった「轟大根」は生まれた。

ふもとの出合地区から轟までは5
キロほどの急な山道。今では自動車
で数分の距離であるが、昔は食料や
畑の肥料を運ぶのさえもすべて人が
かついであがったという。

まさに陸の孤島。当然目立った産
業があるわけでもなく、主な収入源
は但馬牛の飼育くらいなもので、雪
深い冬場はみんな出稼ぎへと出てい
くしかなかった。

時代は高度経済成長期、若者がこ
ぞって町へと向かう中、「」のまま

は轟に住む人間などいなくなると思
う住人までいた。水がきれいで、
空気がおいしいこの村を活気づけた
いこれが住民の切なる願いだった。
そんなとき、県から近代的経営形
態をもつ農場の育成を目的とする
「パイロット事業」の計画が舞い込ん
だ。これは県が補助金を出して杉ヶ
沢高原の土地・63町歩を畑地とし
て造成し、さらに高原まで道路を建設
するという話だった。事業費用の一
部は自分たちで負担しなければな
らなかつたが、この地で生きていくた
めに住民たちはこの事業にかけた。
轟の農家のほとんどにあたる27戸
が事業に参加。昭和42年、3年計画
の「パイロット事業」がスタートするこ
ととなる。

今なら

キャッシュバックキャンペーン実施中!

モデルハウスに行こう!



あなたの期待を超える家づくり。

クレバリーホーム 和田山店

福井建設株式会社 0120-355908 さぁゴーゴークレバ

朝来郡和田山町国道9号線沿いジャスコ前 <http://www.h-fukui.co.jp/cleverly.htm>

全国に広がるクレバリーネットワーク



強風が作物を襲う

畑地の基幹作物には、養蚕のための桑、そしてもう一つに栗が選ばれた。造成された畑地から順に植えられていく桑と栗の木を見ながら、立派な実をつけてくれよ」とみんな祈るような気持ちだった。

しかし、思いもよらない出来事が襲いかかる。この土地特有の強風が作物をだめにした。実はボロボロに傷み、たぐえ風の被害を受けずにも今ひとつ。希望は一瞬にして絶望へと変わっていった。

脳裏に生活の不安がよぎる住民たちの思いをよそに、その間も着々と畑地の造成は進んでいく。明るい見通しのないまま、焦りと時間だけが過ぎていった。

「轟大根」の誕生

「桑と栗を育てる合間に、大根を植えてみないか」八鹿農業改良普及センターからのアドバイスだった。元々、大根は高原野菜として日本でも多くの土地で栽培されている作物であり、大根の有名な産地は高原が多い。わらをもすがる思いで、試験的に大根を植え始めた。

植えたのは白首大根の一種、ハル

ミノという品種。これが当たった。昭和43年、姫路市場へ出荷された轟の大根は、初めての生産にしてはでき

がいいと市場の評価は上々だった。これは、杉ヶ沢高原の土と気候条件がハルミノに見事一致した結果だった。さらに、高原特有の朝露が日

持ちのする大根を作り出していた。朝露が大根の葉を湿らせて鮮度を保ち、また湿った土が大根に付着して

傷がつかないように保護していたのだ。その分、収穫は朝4時から始めて日が上がる前に終わらせなくてはいけない厳しい仕事だったが、これしかない。一家総出でがんばった。

また、まともな商品になるまで3年はかかる桑や栗と違い、収量率が高い大根は経済的安定をもたらし、やがて桑・栗畑は次々に大根畑に様変わり。そうしてここに、奇しくも

「轟大根」は誕生することとなる。

だが、新たな戦いが始まるようにしているとは、まだこのとき誰も知らない。それは順調に生産を続け、7、8年が経った頃のことだった。

連作障害との戦い

突然、黄色がかった葉をもつ大根が見られるようになった。しかし、葉が黄色いだけで大根そのものには異常は見あたらず、単なる発育不良

お世話になったあの方へ一荷月堂の伝統の味をお役立てください

お中元に出石そばをどうぞ

出石そば

風味豊かな 半生そば

権兵衛餅

湖月堂

お問い合わせ、ご注文は ☎ 0120-52-2154

7、8月は特別価格の逸料で承っております。



夫婦の二人三脚によって、轟大根の実は豊かに育っている。

だと、その時、誰もが思った。

ある日、市場から、大根が堅くてこれでは商品にならない」と連絡が入った。大根を輪切りにしてみると、黒く固い繊維がはしっている。これは、全国の大根農家で恐れられていた連作障害の一つ、「萎黄病」の症状だった。

当時、大根は同じ畑で10年しかもたないとされ、連作障害が必ず起きると言われていた。トラクターについて「萎黄病」に侵された土が他の畑へと移り、感染はあつという間に広がる。ほとんどの大根畑がやられた。「このままでは轟の大根はおしまいだ」と誰もが思った。

何の手の施しようがないまま時間だけが過ぎる。その間も「萎黄病」は猛威を奮い続け、とうとう劇薬「クロルピクリン」による土壌消毒を余儀なくされることになる。農業に対する人体の影響がまだ問われなかつた時代、これだけが頼りだった。土壌消毒を繰り返す中、なんとが「萎黄病」も治まり、これで誰もがまたおいしい大根を作れると喜んだ。しかし、その喜びは単なる一時的なものに過ぎなかつた。2年後、再び、大根の葉が黄色くなり始めたのだ。「クロルピクリン」は諸刃の剣だった。土の中を無菌状態にして、萎黄

病を一掃してくれるが、それは同時に抵抗力のない瘦せた土の畑を産みだしていた。結果、どの畑も1、2年後には、「萎黄病」に侵されるといふ、土壌消毒と連作障害のいたちこつこ。これでは安全でおいしい大根作りどころではなかつた。

土づくりからの再出発

「萎黄病」が蔓延する中、比較的被害の少ない畑があつた。農業は土づくりがすべて」と強い信念をもつ、森本さんの大根畑だつた。化学肥料を使う農家が増える時代で、森本さんの畑には昔ながらの牛糞で作られたたい肥が肥料として使われていた。

大根作りの好調さに加え、農業の合理化も進んで牛を飼う農家がいなくなる中、牛の糞がよい肥料になるからと牛を飼いつづけていた。

「ここは造成地だから、いつか土で悩まされる日がくると思っていた」。手間がかかるゆえに、一家に一頭飼うのがやっと。それでも土づくりにはかせないと、7頭まで増やした。その分、手間も7倍。幸い牛を育てることが大好きだつた奥さんと二人三脚で、冬の仕事のない間はたい肥づくりに励んだ。そこから新たに土づくりへの重要性が再認識されることとなる。たい

28日
杜氏まつり
同時開催!

2003 第10回 但馬“牛まつり”

9月26日(日) 10時~17時

参加賞 10万円!!

造型物のコンテスト&パレード

但馬牛をイメージした造型物大集合!

参加者募集中! **賞金総額 280万円!!**

あなたもステキな但馬牛を造ろう

場所
但馬牧場公園
(温泉町丹土)
待ってるよ!

但馬牛のファッションショー
但馬ビーフの試食
(レストラン風のシェフによる本場但馬ビーフステーキをご賞味ください)
花嫁行列、子どもまつりパレード、牛絵画展、ステージ演技、
動物ふれあいコーナーなどイベント盛りだくさん
但馬の特産品の販売

問い合わせ先
但馬牛まつり実行委員会
(温泉町役場企画観光課内)
TEL.0796-92-1131
<http://www.onsencho.com/>

杉ヶ沢高原の63町歩もの広大な畑地が広がる。



青々と茂る「轟大根」の壮大な風景。



県外から迎えた新規就農者の方々。



平成14年、長年に渡り姫路市民に新鮮でおいしい野菜(大根)を安定的に供給した成果が評価されて、姫路市長より産地表彰を受けた。

肥づくりは根気と努力のいる作業。牛のために牧草地を設け、秋には牛糞に混ぜる枯れたススキを刈り取る。といった地味で辛い仕事が続いてきた。農業や化学肥料を増やせば手間も省けて簡単に終わることだが、それでもこうした作業が安全かつ味のよい大根を産む大きな力となる。

「先祖がこのような作物を育てることが困難な場所です。どうやって生き抜いてきたかを思い出してほしい。古いといわれるかもしれないが、牛を飼い、それを肥料としてきたからこそ、こんな場所でも生き抜いてくれたんだ」

困難に打ち勝てたのは偉大なる先人たちの知恵を忘れなかったことだと言いつける。

そして現在では、地道な土づくりと「萎黄病」に強い品種が開発されたこともあり、あれだけ悩まされた連作障害による被害はほとんどみられない。同じ畑で大根を作り続けても35年はずっといわれるまでの肥えた力のある畑となった。6月から11月までの収穫期には、連日、一戸あたり600〜700本の大根が出荷され、私たちの食卓を彩っている。

受け継がれる情熱

平成15年、夏、16戸の農家が今年も大根づくりに励んでいる。6月下旬から出荷が始まり、早朝から高原に上がり大根を収穫して、洗浄、箱詰めの作業。また、8月下旬までは、大根収穫後に順次晩生品種を播種するため、作業が重複して超多忙の毎日が続く。地元では、この忙しい時期を「百日戦争」と呼ぶ。

一時は後継者不足に悩んだこともあった。しかし評判が高まる近年、大阪、和歌山などから3戸の新規就農者を迎え、新しい担い手の育成に集落をあげて取り組み活気づいてきている。次の世代を担う若い力が、先人の知恵と努力のバトンを受けて、轟大根の生産に汗を流している。

あるベテラン農家は、「若い人と言いたいことは、1日最低でも2回は畑を見に行ってください」といふ。大根は生き物です。日々、刻々と変化している大根の状態を見逃しては本当にいいものはできません。ひとつのことで満足せず、いつも挑戦する気持ちで轟の大根を作ったと思えます」と語った。

「百日戦争」と一見厳しい大根生産にも、「作る喜び」や、収穫する喜びがある。この喜びを、みんなで力を合わせてやってきたからこそ、今の轟大根があるのだ。この情熱は、若い挑戦者たちにも、「作る喜び」として受け継がれていくだろう。

不動産のことならライフフィットへ!



本店
〒668-0025
兵庫県豊岡市幸町4番4号
TEL.0796-24-2011
FAX.0796-24-2077



豊岡駅前店
〒668-0031
兵庫県豊岡市大手町1番27号
TEL.0796-26-6565
FAX.0796-26-6566



土地情報コーナー
(とよおかホームिंगギャラリー・センターハウス内)

ご希望の物件情報を検索できます
情報誌「ライフフィットタイムズ」進呈中!!



株式会社 ライフィット
(社)兵庫県宅地建物取引業協会 宅地建物取引業者免許
兵庫県知事(3)第650061号

ホームページ <http://www.lifit.jp>
E-mailアドレス info@lifit.jp

